
お守り

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お守り

【Nコード】

N2221I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

山に除霊に来ていた霊媒師。一晚ある家に泊めてもらうことになったのだが…

(前書き)

ショートショートです。何かの合間にでも読んでね。

ここは山の奥地、点々としかない家のうちの一軒。

「夜分遅くすいません。仕事に来たのですがバスに間に合わなかったのです。どうか一晩だけ、泊めていただけでないでしょうか？」

そう言ったのは、山に除霊にやって来た、女の霊媒師。

「そうですか。泊めるのは構わないんですが、世の中、最近物騒ですから一応身分証かなにかお持ちでしょうか？」

そう三十代ぐらいの主婦が尋ねる。

「はい、どうぞ」

女の霊媒師は、保険証と職業柄持ち歩いている名刺を差し出した。

「確かに…あなたって霊媒師なの？」

「ええ、そうです」

迷っている様子の奥さん。

「ちょっと困ったことがあって…聞いてくださるかしら？」

ここは、奥さんの家の二階。

「Aちゃんは優しい子だねー」

一人しかいない部屋。

座椅子にもたれる、おばあさんが一人話していた。

「そうなのかい。うさぎさんは高台から月を見上げて…うん、月に

旅だった奥さんを待っているのかい……優しいうさぎさんだね」

おばあさんは相槌あいつちを打ちながら膝ひざの上に開いた小説をめくる。

「ここ何ヶ月も、こうなんです……」

困り果てた様子ようすの奥さんは心情を吐露とろする。

それもそのはず。なんせおばあさんは目を開けていない。

「あの方は目が……」

霊媒師の疑問に女は答える。

「そう、見えないんです。それなのに……本を読んだり他にもいろいろ、まるで見える見たいに……その、幽霊の仕業しわざじゃないかと思っ
て……」

「わかりました」

霊媒師は目をつぶり、呪文のような言葉を呟つぶやいた。

すると、透けた女の子が現れ、霊媒師と目が合う。

「娘さんをお亡くしになられましたか？」

霊媒師の質問を幽霊ゆうれいの女の子が遮しきる。

「おばあちゃんは目が見えないの！だから、私がおばあちゃん目
になってあげないといけないの！邪魔じゃましないで……」

まくしたてる幽霊。

霊媒師は、おばあさんに何も霊による被害が出ていないことを確
認した。

「……娘さんですよ、おばあさんには霊による被害は全くありませ
ん。悪霊あく霊でもないようです。その……除霊じゆりやうなさるんですか？」

「…ええ、病気で亡くした娘です。でもこういう形はダメだと思っ
んです。人様から見たら不気味がられるし…だから…」
苦汁の表情を浮かべる奥さん。

「……わかりました」

霊媒師は、御神木が入った白い布地のお守りを右手に、左手には
白いお札ふだを持った。

そして透けた女の子に向かい合い、ぶつぶつとお経のようなもの
を唱え始めた。

(いや！おばあちゃんと一緒に居たい！)
と女の子の幽霊が騒ぎ出した。

「！！。私の孫をいじめないで！」
盲目の祖母は立ち上がり、怒りをあらわにする。

おばあさんの耳元で霊媒師は何事かをつぶやいた。
不承不承に納得するおばあさん。

すると、お札ふだが発光し始め

(いや、いや！)

女の子の幽霊は徐々に姿を薄め、消え去った。

白から金色に姿を変えた(お札ふだが)。

お札ふだを、右手のお守りと一瞬重ね合わせる霊媒師。

「これで、大丈夫です。それと、このお守りを肌身離さず持ってい

てください」

・
・
・
渋々、受け取ったおばあさんはお守りを首から下げる。

そして、夜が明けた。

「ありがとうございます。おかげで母が独り言を言わなくなって、安心しました」

頭を下げる女性に恐縮した霊媒師は

「いえ、こちらこそ一宿一飯のお礼が出来て幸いです。ありがとうございます。では、失礼します」

そう言うのと体の向きを変え、立ち去る霊媒師。

そんな彼女の耳にはあの二人の会話が

(これから心の中で話せるね)

(ああ、そうだね)

おばあさんは、首から下がるお守りを見て静かに微笑んだ。

(おしまい)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2221i/>

お守り

2010年10月31日04時33分発行